

能楽番組の画像データの扱いに関する考察

椋山女学園大学現代マネジメント学部

三木邦弘

平成18年 3月 31日

1 はじめに

東海能楽研究会は平成6年頃から東海地区で行われた能楽の番組データベースを作成している[1, 2, 3]。データを整理したものを冊子の形やインターネットを介して検索できる形で提供して来た[4]。現在この検索システムに、番組データベースの元データである番組自体の画像を追加することを検討している。本文ではこの画像の追加に関する考察とその試行について述べる。

2 番組画像の必要性

能楽番組データベースの作成に当たっては、元の番組が持っている情報をできるだけ漏らさないように文字化することに留意した。しかし能楽番組においては人名の位置や大きさなどにも意味があり、そのような情報はデータベースには取り入れられていない。一方、元の番組では省略された情報もあり、これらの補いをデータ入力時に行なっているが、間違いの原因になったり、データの校正に時間がかかる一因ともなっている。

例えば図1は平成14年に行なわれた能楽の番組の一部である。またこれに番組データベースのここに相当する部分を図2に示す。番組の画像では、最初の演目である「土蜘蛛」の周りに塚本照子などの演者の名前がある。これらの位置などはデータベースには入っていない。シテはそのままデータベースのタグとなっているが、柿野光子以下の3名については、番組の画像では「頼光」など役名がついているが、全てシテツレと言う扱いになっている。

その後、「国栖」、「船弁慶」、「高砂」と演目が続くが、下方にある地謡の和久莊太郎を始めとする4名は、「国栖」と「船弁慶」の担当であり、「高砂」以降は、少し左の方に書いてある竹内澄子を始めとする4名が地謡を勤めている。

このようにデータベース化の際に失われた情報を得るために、またデータベース化の際に追加された情報が妥当であるかどうかを確認するために、データ元の画像は非常に有効である。また現在校正が進行中のデータであっても、データ元の画像を合わせて公開することにより、利用者は怪しいデータに対して自分で確認することが可能になる。かつてのコンピュータは、記憶装置が極めて高価であったために、サイズの大きな画像データは大量にデータベースに置くことはできなかったが、現在では安価に大容量のハードディスクが利用可能である。また、ネットワークの回線容量が不十分な時代では、画像を提供しても利用者はそれを利用しにくい状況であったが、現在では家庭からでもADSLなどの高速回線を利用することが可能である。

名古屋翼会大会番組

平成十四年六月一日(正)午前十時始

於名古屋能楽堂
名古屋市中区三ノ丸一丁目一
電話四五二二二三〇〇八八

楽 謡

土 塚本 照子
知 見 柳野 光子
小 長瀬 三枝子
山 山田 寸み子
定子

仕 舞

国 栖 山内徳太郎
船 舟 慶 田口 将成

和 久 莊 太郎
辰 巳 満 次 郎
藤 川 大 二 郎
藤 巳 大 二 郎

高 砂 玉井 磨子

松 虫 小島 加代子

羽 衣 高木 富美子

杜 若 伴 定子

班 女 柳野 光子

東 北 長瀬 三枝子

竹 内 澄子
倉 本 和
戸 田 博
玉 井 祐

小 丸 塚本 照子

藤 歌 山田 又三子

藤 金子 恵津

図 1: 能楽番組の例 (一部)

3 番組画像の特徴

能楽番組データベースに画像を追加するために、主として平成14年の番組について調査、検討を行なった。

ちらし形態の番組

番組データベースを作成するには、誰が何を演じたかがわかればよい。よってちらしでも必要な事項があれば構わないが、これを番組の画像として記録するのは問題がある。ちらし以外に当日会場でパンフレットの形の番組が配布されて居るならば、そちらの方を記録するべきであろう。しかしそのようなものがあったかどうかの確認は容易ではない。平成14年度のデータの元となった資料79点のうち33点は、サイズがA4以下で写真があったり、タイトルやチケットの価格などが強調されていたりして、ちらしのように思われる。

まだ番組データベースの昔のデータでは、専門雑誌や「片岡喜兵治覚帳日記」のようなものからも採集している。これらの画像はまたそれなりの価値はあるが、二次的な情報源の画像であることを示す必要もあるだろう。

縦書き横長であること

番組は例外なく縦書きである。よって多数の演目の会は横に長い番組になる。絵巻物などの伝統を受け継いでいるようで、A3縦よりも長いものもある。平成14年度の元データのうち、ちらし風のA4サイズ以下のものを除いた33点の横方向の長さを次に示す。

大きさ (cm)	数	備考
36	2	B4縦の長さ
37-41	0	
42	7	A3縦の長さ
43-53	6	
54	11	四六判の長辺の半分?
55-59	5	
60以上	2	最長のものは78.5cm

通常入手が容易なスキャナーはA4サイズまでなので、番組らしいものの画像を取り込むには分割するしかない。一方縦方向は、ほとんどがB5縦程度であり、A4縦よりも大きいものはなかった。

著作権の問題

番組の画像にも著作権があるためにそれへの対応が必要である。一番簡単なのは著作権が切れる50年以上前の番組の画像のみを入れることである。番組の部分に関しては、その番組が演じられてから50年経てば問題ないと思われる。一方通常の演奏会のプログラムなどと同様に、能楽の番組にも演目の解説などの文章が掲載されている事が多い。これらの部分の著作権は、それを書いた人が亡くなってから50年となるので確認が面倒である。誰が解説を書いたのか明記されていない場合が少なくない。

番組の背景に写真などを取り込んだものもあり、これらも同様の問題がある。解説の文章が番組とまざることはないので、面倒な場合は解説の部分を取り込まないと言う方法があるが、番組の背景の写真は分離することが困難である。

番組の誤り

余り無いことだが、印刷された番組に誤りがあることがある。それをそのまま画像として登録した場合、番組データベースのデータが疑われることになる。これについては、画像に注釈を書き込む訳にも行かないので、データベースの方に注釈を付ける必要があるだろう。しかしこれまでそのような注釈は付けていないので、面倒な作業になる可能性がある。

また誤りまでとは言えないが、漢字の新字体と旧字体の問題がある。データベースでは同一人物についてはどちらかの字体に統一しているが、そのために番組の画像とは一致しないことが生じる。

4 能楽番組データベースへの画像の取り込み

以下に能楽番組データベースへの画像の取り込みの試行について述べる。

画像の読み込み

画像の読み込みには台湾のMustek社のScanExpress A3 USBと言うフラットヘッド型のスキャナーを用いた。比較的安価だがA3原稿まで読み取り可能である。これを利用したのは、前述の通りの横長の番組を、できるだけ一度で取り込むためである。取り込みのソフトウェアはスキャナーの付属のものを利用した。原稿を載せてボタンをクリックするだけで、JPEG形式の画像ファイルができる。A3よりも小さな原稿は、特に取り込み枠を設定しなくても原稿の大きさの画像になる。

このスキャナーは赤緑青の三色の成分をそれぞれ16bitの精度で読み取り可能であるが、光学的には横300dpi、縦600dpiの解像度しかない。読み取りソフトウェアでこれを縦横9600dpiまで補完するようになっている。画像をどの程度の解像度で読み取れば良いかについては、今後の検討課題となるが、今回はスキャナー付属ソフトの基本設定である200dpiで取り込んだ。14インチのディスプレイの解像度が約100dpiなので、ディスプレイ上では実物の2倍の大きさ(面積は4倍)に表示されることになる。

スキャナー付属ソフトが自動的に通し番号付きのファイル名を付けてくれるので、番組の大きさがA3以下で、余分な部分が無ければ、原稿を置いてボタンをクリックするだけで取り込みは終わる。A3以上の場合は、はみ出した部分を改めてスキャナーで取り込み画像編集ソフトで合成することになる。また、原稿に番組以外の解説などがある場合は、やはり画像編集ソフトでトリミングを行なう必要がある。今回は、Corel Paint Shop Pro X ver.10.03を使用した。特にこの画像編集ソフト固有の機能は使用していない。複数回に分けて取り込んだ画像の合成の際には、

- 番組自体は空白の部分が多いので、そこで接続すると接続部が目立たなくて良いのだが、逆に目印となるものがないので合わせにくい。
- 取り込みの際に原稿が少しでも傾いていると、接続部分で用紙が折れ曲がっているようになる。

などの問題点が生じる。よってできるだけ大きなスキャナーで一度に取り込むのが望ましい。フラットヘッド型ではA3以上のものはかなり特殊になるので、シート・フィード型¹のスキャナーで原稿が長くても構わないものを探すと良いかもしれない。

番組データベースへの取り込み

取り込んだ画像ファイルをftpなどを利用してサーバーに転送する。画像ファイルはかなりの数になることが想定されるので、番組データベースの他のファイルとは別のディレクトリーに入れた。同じディレクトリーに全ての画像ファイルが入るので、ファイル名が重ならないように注意する必要がある。

番組データベースには、新たに「画像」と言うタグを設けて、そこに画像ファイル名と見出しを入れる。見出しは画像ファイルを見るときのリックになる文字列であり、省略可能である。これは紙の表裏に印刷されたような番組に対応するためである。これまで番組データベースでは、一つのタグに対しては値を一つしか設定しないようにしてきたが、これは初めての例外となる。

<p>素誌 土蜘蛛</p> <p>シテ 塚本照子</p> <p>シテツレ 柿野光子</p> <p>シテツレ 長縄三枝子</p> <p>シテツレ 山田すみ子</p> <p>ワキ 伴定子</p>		<p>平成14年6月1日(土)</p> <p>名古屋能楽堂</p> <p>主催者 名古屋巽会</p> <p>入場料 無料</p>	<p>画像(表面)</p> <p>画像(裏面)</p>	<p>名古屋巽会大会</p>	<p>平成14年6月で検索した結果</p> <p>検索結果</p>

図 2: 画像付き番組の例(一部)

画像のタグが付いた番組を表示する際には、タグにある画像ファイル名を別ウインドウに表示するようなリンクを使用した。図2は紙の表と裏に番組が印刷されていた例である。「画像(表面)」をクリックすると図1とほぼ同等のものが別ウインドウに表示される。最新のInternet Explorer(ver.6)では番組画像のように大きなものは自動的に縮小されて表示される。元の大きさで見たい場合は、画像の上にはばらくマウスポインターを置くと、図3のようなボタンが出てくるので、これをクリックするとほぼ実物の2倍(面積は4倍)で表示される。

¹フラットヘッド型は、通常のコピー機のように、原稿を平らなガラス板の上に置き、直線状読み取りヘッドが動いて読み取る。そのためにガラス板より大きな原稿は扱うことができない。一方シート・フィード型は、通常のFax機のように、原稿を読み取りヘッドの上を通過させて読み取る。よっていくら長い原稿でも原理的には読み取ることができる。

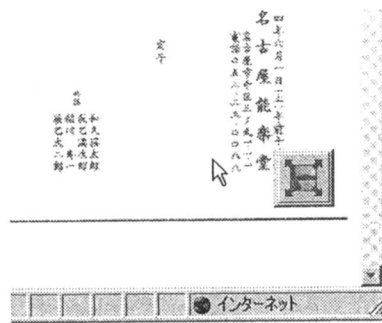


図 3: 画像拡大ボタン

5 おわりに

能楽番組の検索システムにデータもとの番組の画像の追加について、考察と試行を行なった。実際に画像を入力するとなると著作権の問題を解決する必要がある。また、ここでは検索システムの付録のような形での番組の画像を取り扱ったが、これ自体を一つの柱とする考え方もある。その場合は、各画像ごとに正確な大きさや向き、挨拶や解説文の有無などの情報を付加する必要があるだろう。これらの情報の付加により、番組内容以外の面からの検索や統計的な処理が可能になるが、その必要性や有効性を見通しをある程度立てることが今後の課題である。

参考文献

- [1] 東海能楽研究会：「東海能楽年鑑 平成5年版」、平成6年10月、中部日本教育文化会
- [2] 深谷哲監修、笈鉦一、飯塚恵理人編集：「東海地域能楽番組一覧 明治元年～昭和26年」、平成9年7月、椋山女学園大学
- [3] 深谷哲監修、笈鉦一、飯塚恵理人編集：「近代名古屋の能楽を支えた人々」全三巻、平成13年7月、東海能楽研究会発行
- [4] 三木邦弘：「能楽番組データのWeb検索システムについて」、平成18年3月、平成15年度～平成17年度科学研究費補助金・基盤研究(C)(2)研究成果報告書「東海地域能楽資料の収集と整理」課題番号 15520124